

高安詰所だより

第16号

立教186年

4月16日



春の学生おぢばがえり

「トップランナー」

春休みということもあって、三月後半の詰所は人、人で溢れました。「学生生徒修養会（大学の部・高校修了生コース）」に始まり、「鼓笛バンド指導者研修会」「春の学生おぢばがえり」そして「少年会総会」と、ここ数年、休止や制限されていた春の大型定番行事の全てが復活し、詰所でも堰を切ったように若者達の出入りが増えて、いよいよ全教が本格的に動き始めたことを実感しています。

四月に入っても、「二委員会から一名以上の別席者をご守護」をスローガンに、婦人会「別席強調月間」が始まり、別席者をお連れするご婦人方の姿が目立ってきました。

むろん婦人会ばかりに任せておく訳には参りません。六月からは大教会の「別席強調月間」が始まります。高安に繋がるお互いが、「三年千日」初年の上半期に一気に弾みをつけ全教の先頭に躍り出て、年祭活動を牽引致しましょう。

詰所行事予定（五月）

八日 にをいがけ実動

十三日 おつとめ勉強会

十五日 勤務者修練Ⅰ

十七日 直轄祭参拝（大教会）

二十日 勤務者修練Ⅱ

二十三日 大教会月次祭参拝

二十六日 本部月次祭参拝者受入れ

六月 大教会 別席強調月間

「三年間で千四百名の

別席者のご守護を」

修養科生 四百名のご守護

「三年間で四百名の修養科生のご守護を」

大教会のこの方針を受けて、詰所でも目標達成に

向け全力で取り組んでいます。



教祖百四十年祭



たすかるこの旬に、身上事情で悩み苦し

む方々に積極的にお声掛け頂き、おちば、

修養科にお誘い下さい。

詰所の動き

春の学生おちばがえり（三月二十八日）

三月二十八日の「春の学生おちばがえり」に、全国から大勢の学生が参集し、おちばは若者達の熱気に充ちあふれました。

詰所でも高安学生会を始め、教区学生会などが宿泊、ヤングパワーに圧倒されました。今年は「夏のこどもおちばがえり」も数年ぶりに形を変えて再開されますので、長かったプランクで忘れかけていた大人数の受け入れマニュアルを再確認し、修正するきっかけにもなりました。

詰所カフェ再開（三月二十六日）

「詰所カフェ」が再開しました。四会（婦人会、青年会、少年会、学生担当委員会）主催の詰所カフェは、大変好評を得



ていましたが、コロナの影響で、このところ休止していました。漸くコロナも落ち着いてきましたので、三月二十六日から復活、月次祭参拝後に、詰所一階ホールにて、煎れたての美味しいコーヒーをお召し上がり頂けるようになりました。毎月開催のミニライブ演奏会も回を重ねる毎に充実し、飛び入りの出演者も増えて、内容もバラエティーに富んでいます。毎回趣向を凝らして、お帰りの皆様に楽しいひとときを過ごして頂いています。二十六日にはお気軽に詰所にお立ち寄り下さり、美味しい本格コーヒーと素敵なライブ演奏のひとつときをお楽しみ下さい。

勤務者修練（三月二十日）

三月の勤務者修練は、年に一度のお楽しみ、**土筆**（つくし）摘み。目指すは日本最古の道

として知られる「山辺の道」沿いの史跡「内



山永久寺跡」。永久寺は全国にその名を馳せ、栄華を誇った大寺院でしたが、明治の「廃仏毀釈令」によって、大伽藍や無数の建

物が徹底的に取り潰され、見る影もなく荒れ果てましたが、今ではそれすら感じさせない閑静な段々畑です。この辺りの斜面はとても日当たりが良く、そこかしこに土筆が顔を出していました。勤務者らは「土筆ハンター」モードに入り黙々と摘み取り、大収穫に意気揚々と詰所に凱旋したものの、出迎への炊事掛は何故か渋い顔。それもその筈、土筆の袴（はかま）取りは半端ではないからです。一本一本丁寧に取り除くのは実に根気のいる作業で、膨大な土筆の山を見てとても笑顔にはなれません。それでも一生懸命頑張張り、夕食にはおかずの一品になって皆さんに喜んで頂きました。

修養科第九八二期

今期入科されたばかりの女子修養科生（七十八才）が、三月二十日、急性心臓症で出直されました。余りの突然の事に、同期の修養科生らは立ち直れない位悲嘆にくれましたが、付



添いの修養科生(実姉)が辞退せず、毅然と修養に勤しまれる姿に、「いつまでもくよくよしてはいけない。亡き修養科生の方まで共に頑張ろう」と誓い合い、今は大節を乗り越え、皆勇んで修養に励んでおられます。



異動 修養科・一期講師

修養科第九八二期(四〜六月)一期講師に、赤阪繁一先生(紀北

・日東紀)がおつとめ下さっています。

この期は海外クラスも含め二百名を越える大所帯です。どうぞお身体に気をつけてご指導下さい。



金崎優斗さん(難陽・陽東京)

詰所青年の金崎優斗さんが青年勤めを終え、地元埼玉に帰られました。天理大学卒業までの半年余りの期間でしたが、勉学と伏せ

込みをしつかり両立させ、立派に卒業されました。年末年始お節会とハードな毎日でしたが、どんな時も笑顔を絶やさず素直につとめてくれました。本当に御苦労さまでした。

編集後記

遠征で詰所に宿泊していた日大札幌高校野球部が、日程を終え、引き上げる際に小さなメモを残していた。「大変お世話になりました。天理教の方々は本当に温かい人ばかりで、試合から帰ってきたら、お疲れ様、といつも声をかけて下さり、様々な所でサポートして下さいました。今までで一番有意義な遠征でした。この恩は甲子園優勝で必ず返します。本当にありがとうございます。」読んでいて心が暖まり、今どきの若い子達でもちゃんと「恩」が分かるんだと感心した。

発行 天理教高安大教会信者詰所

発行者 芦田孝廣

印刷 天理市守目堂町二五五番地一

Tel 0743630421